ISSN 1347-3085

日本地衣学会ニュースレター

No.150

Newsletter from the Japanese Society for Lichenology

目次

会務報告……560
第１６回観察会（栃木県日光市奥日光，湯ノ湖周辺と戦場ヶ原周辺；２０１７年９月）報告／坂井 広人…… 560
会員通信 ……563
日本地衣学会第１６回観察会(栃木県日光市奥日光，2017年9月)で観察された地衣類／綿貫 攻，木下 靖浩，坂井 広人，原田 浩 …… 563
日本地衣学会第１６回観察会に参加して／小杉 真貴子…… 565
お知らせ ……566
選挙結果／竹仲 由希子 …… 566
会長挨拶／原田 浩 …… 567
日本地衣学会評議員会（2017年7月15日）議事録（続報）／竹仲 由希子……569
会員通信 ……572
干支の地衣類―戊年―．イヌに因んだ和名／原田 浩 …… 572
千葉県における地衣類分布調査と，調査記録としての「千葉県地衣類誌資料」／原田 浩 …… 575
お知らせ ……575
ニュースレター編集委員会からのお知らせ／川上 寛子 …… 575

会務報告　*Report of the JSL Activities*

第１６回観察会（栃木県日光市奥日光，湯ノ湖周辺と戦場ヶ原周辺；２０１７年９月）報告

Report of the 16th JSL Field Meeting at Oku-Nikko, Nikko-shi, Tochigi-ken, central Japan, September 2017/ by SAKAI Hiroto

>>>>>>　坂井広人：地域活性化委員会関東

標記観察会が以下のとおり開催されましたので，報告します．

＊　＊　＊

開催日：2017 年 9 月 2 日（土）～ 9 月 3 日（日）
開催場所：栃木県日光市奥日光，湯ノ湖周辺と戦場ヶ原周辺
講　師：原田浩氏（千葉県立中央博物館）
参加者：14 名（講師含む）

＊　＊　＊

地衣学会主催の第 16 回観察会は，山地性・亜高山性の地衣類の産地として古くから有名な奥日光（栃木県日光市）で，大勢の参加者を得て開催することができました．

初日は東武日光駅に集合し，参加者の車に分乗して約 1 時間，宿泊先である湯元の山の宿に到着しました．宿から徒歩で湯ノ湖へ向かいましたが，その間にも樹幹に生育するトゲカワホリゴケ，ウチキウメノキゴケ，ハクフンゴケなどを観察しました．湯ノ湖（標高 1480 m）は白根山の東，奥日光でも奥部に位置する湖で，周囲を一周する約 3km の散策路が整備されています．到着した湖畔では，ヤナギの樹幹上のコフキチョロギウメノキゴケ，モンシロゴケモドキ，カラクサゴケなどの葉状地衣やヤマヒコノリなどの樹状地衣が出迎えてくれました．散策路を進むと，木道脇の転石にはクボミゴケ属，ウスツメゴケ，カムリゴケ，樹幹にはウチキアワビゴケモドキ，ウチキアワビゴケが見られました．針葉樹の倒木を見つけると，枝先に着生するニッコウフクロゴケ，フクロゴケ，フクロゴケモドキ，ウスバトコブシゴケをじっくりと観察できました(図 1)．

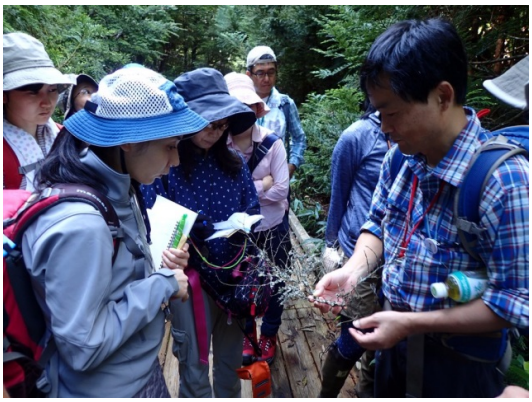


図 1.　針葉樹倒木の枝先に着生するニッコウフクロゴケなどを観察.

続いて湯ノ湖の水が湯川に流れ出る湯滝の上流部付近では，湖畔の転石上のコアカミゴケ，アカミゴケ，キクバゴケ属を観察し，木製の橋の欄干に生える痂状地衣類も見つけました．橋を渡り，湯ノ湖の南側では，針葉樹の樹幹にホネキノリ，コフキイバラキノリ，ハリガネキノリ，アナツブゴケ，イボフクロゴケ，チヂレテリハゴケ，オーアケシゴケモドキ，アナゴケ（図 2），ヨコワサルオガセが着生していました．腐朽した木の根元には蘚苔類と一緒に

図 2. アナゴケ. *Thelotrema inalbescens*

ササクレマタゴケ，アオシモゴケが生育していました．落葉広葉樹の樹幹ではクロアカゴケモドキ，センシゴケが観察できました．木製の案内看板にウチキアワビゴケモドキが生えているのを見つけたのには，大喜びでした．陽が傾いてきたので，湖畔の地衣類には別れを告げ，行きと同じコースを宿に戻りました．24 時間源泉かけ流しの硫黄温泉で疲れをとった後，宿での夕食はマトウダイやカサゴの刺身の盛り合わせ，サンマの塩焼きなど魚介類のフルコースを味わいました．夕食後の懇親会では地衣類の話で深夜まで盛り上がりました．

翌日は車に分乗し，戦場ヶ原の赤沼車庫に向かいました．戦場ヶ原（標高 1390 m）は，男体山の噴火によりせき止められてできた，中禅寺湖と湯ノ湖の中間に位置する広大な湿原で，遊歩道が整備されています．戦場ヶ原の南東端付近に位置する赤沼車庫からは低公害バスに乗車し，南西側の小田代原で下車しました．観察会はまず小田代歩道を通って赤沼車庫へ戻るコースを歩きながら始まりました．ミズナラの樹幹に着生するチヂレコヨロイゴケ，ツヤナシエビラゴケ，オオコゲボシゴケ，ヘリトリツメゴケ，シラゲムカデゴケ，チヂレツメゴケ，ヨコワサルオガセを観察しました．ズミの樹幹にはケウラミゴケ（図 3）が着生していました．カラマツの樹幹にはヒメリボンゴケ，ゴヘイゴケ，ウスカワゴケ，ヒゲアワビゴケ，トガシアワビゴケが見られました．落葉広葉樹の樹幹ではトゲヒメゲジゲジゴケ，ヒメゲジゲジゴケ，サビイボゴケ，トゲカワホリゴ

図 3. ケウラミゴケ. *Nephroma resupinatum*

図 4. 地衣生菌が生えたヘラガタカブトゴケ.

Lobaria spathulata with a lichenicolous fungus

図 5. ミヤマクグラ. *Oropogon asiaticus*

ケ，チヂレウラジロゲジゲジゴケ，チヂレアオキノリ，ヘラガタカブトゴケ，また同種に生えた地衣生菌（図 4），クズレウチキウメノキゴケ，チョロギウメノキゴケ，ミヤマクグラ（図 5），カワラバムカデゴケ，テリハゴケ，コ

ナクロボシゴケ，クロイボゴケが観察できました．

昼食を済ませ湿原を背景に記念撮影（図 6）をした後，小田代歩道から自然研究路へ向かうコースで観察を行いました（図 7）．ルーペを使って落葉広葉樹の樹幹をじっくりと観察すると，メダイゴケに出会えました（図 8）．ミズナラが優占する森林が続き，地衣類の顔ぶれは午前中と似ており，復習をしながら，また，新たな種類は無いものかと探しながら進みました．

赤沼に近づくと，湿原から流れ出る小川が現れます．間もなく左（戦場ヶ原側）に折れる自然研究路を歩き，川沿いのズミの樹幹や枝に *Leptogium burnetiae*，ウチキアワビゴケなど様々な大型地衣類の着生が見られました．その後，自然研究路から赤沼車庫へ向かう途中，小川沿いのズミの樹幹に着生するコウヤクゴケ（図 9）が観察会の最後を飾りました．間もなく，赤沼車庫に到着，散会，帰路につきました．

今回の観察地では大形の葉状地衣類を多数観察することができました．台風がちょうど日本列島の太平洋側を縦断した時でしたが，台風がそれてくれたおかげで好天にも恵まれました．実り多き観察会になったと思います．

図 6．昼食後の記念撮影．

図 7. 小田代原でミズナラに着生する地衣類を観察する様子．

図 8．メダイゴケ．*Schismatomma ocellulatum*

図 9．コウヤクゴケ．*Sticta fuliginosa*

会員通信　*From Members*

日本地衣学会第１６回観察会（栃木県日光市奥日光，2017 年 9 月）で観察された地衣類

Lichens observed during the 16th JSL Field Meeting at Oku-nikko, Nikko-shi, Tochigi-ken, central Japan (2 – 3 Sep. 2017) / by WATANUKI Osamu, KINOSHITA Yasuhiro, SAKAI Hiroto and HARADA Hiroshi

>>>>>>> 綿貫 攻[1)]・木下 靖浩[1)]・坂井 広人[2)]・原田　浩[3)]：
1）地域活性化委員会関東，2）栃木県立博物館，3) 千葉県立中央博物館

2017 年の観察会は奥日光で９月２日から３日にかけて実施された．この時観察された地衣類のリストを以下にまとめた．標本は採集していない．当地域周辺で坂井等が詳細な調査を実施しているが，将来，標本に基づくリストを別報としてまとめる予定である．

観察リスト

場所：栃木県日光市湯本（湯ノ湖：湯），中宮祠（小田代ヶ原～赤沼：小）

観察日: 2017 年９月２・３日

Alectoria lata ホネキノリ（湯，小）

Anaptychia isidiata トゲヒメゲジゲジゴケ（小）

A. palmulata ヒメゲジゲジゴケ（小）

Aspicilia sp. クボミゴケ属の一種（湯）

Brigantiaea ferruginea サビイボゴケ（小）

Bryocaulon sp. シダレキノリ属の一種（小）

—*B. pseudosatoanum* か *B. satoanum* のいずれかだが，形態からの区別は困難である．

Bryoria furcellata コフキイバラキノリ（湯，小）

B. trichodes ハリガネキノリ（湯，小）

Candelaria concolor ロウソクゴケ（湯）

Cetrelia braunsiana トゲトコブシゴケ（湯）

C. chicitae コフキトコブシゴケ（湯）

C. monachorum コフキトコブシゴケモドキ（小）

C. olivetorum オリベトールゴケ（湯，小）

C. pseudolivetorum オリベトーリゴケモドキ（小）

Cladonia coniocraea ヤリノホゴケ（湯）

C. macilenta コアカミゴケ（湯）

C. pleurota アカミゴケ（湯）

C. scabriuscula ササクレマタゴケ（湯）

Coccocarpia palmicola コナカワラゴケ（小）

C. cucurbitula アナツブゴケ（湯）

Collema subflaccidum トゲカワホリゴケ（湯，小）

Dendriscocaulon sp. （デンドリスコカウロン）（小）

—カブトゴケ科葉状地衣のうち緑藻を主要な共生藻とする種では，２番目の共生藻のラン藻が内部頭状体に分布する．こういった種では，時に，緑藻を欠き，ラン藻のみを共生藻とするラン藻形（cyanomorph）が知られている．*Dendriscocaulon* はそのような，カブトゴケ科のラン藻形と考えられる．しかし，今回の *Dendriscocaulon* がどの地衣のラン藻形かについては不明である．

Evernia esorediosa ヤマヒコノリ（湯，小）

Flavoparmelia caperata キウメノキゴケ（湯，小）

Heterodermia japonica クロアシゲジゲジゴケ（小）

H. microphylla チヂレウラジロゲジゲジゴケ（湯，小）

Hypogymnia nikkoensis ニッコウフクロゴケ（湯，小）

H. physodes フクロゴケ（湯，小）

H. pseudophysodes フクロゴケモドキ（湯，小）

H. pulverata ヒメリボンゴケモドキ（湯，小）

H. subcrustacea イボフクロゴケ（湯，小）

H. vittata ヒメリボンゴケ（湯，小）

Icmadophila ericetorum アオシモゴケ（湯）

Imshaugia aleurites ゴヘイゴケ（湯，小）
Leptogium azureum アオキノリ（湯，小）
L. burnetiae トゲアオカワキノリ（小）
L. cyanescens チヂレアオキノリ（湯，小）
Lobaria adscripturiens f. *adscripturiens*
ヤマトエビラゴケ　（小）
L. crassior チヂレコヨロイゴケ（小）
L. japonica ツヤナシエビラゴケ（小）
L. spathulata ヘラガタカブトゴケ（小）
Megalospora tuberculosa オオコゲボシゴケ（小）
Melanelia olivacea オリーブゴケ（湯，小）
Menegazzia terebrata センシゴケ（湯）
Mycoblastus japonicas クロアカゴケ（湯）
M. sanguinarius クロアカゴケモドキ（湯）
Myelochroa entotheiochroa
クズレウチキウメノキゴケ（湯，小）
M. galbina チョロギウメノキゴケ（小）
M. irrugans ウチキウメノキゴケ（湯，小）
M. metarevoluta
コフキチョロギウメノキゴケ（湯，小）
Nephroma resupinatum ケウラミゴケ（小）
Nephromopsis endocrocea f. *endocrocea*
ウチキアワビゴケモドキ（湯）
N. ornate ウチキアワビゴケ（湯，小）
Normandina pulchella ノルマンゴケ（小）
Oropogon asiaticus ミヤマクグラ（小）
Parmelia fertilis トゲナシカラクサゴケ（湯）
P. laevior テリハゴケ（小）
P. marmariza モンシロゴケモドキ（湯，小）
P. praesquarrosa ナメラカラクサゴケ（湯）
P. pseudolaevior チヂレテリハゴケ（湯）
P. squarrosa カラクサゴケ（湯，小）
Peltigera collina ヘリトリツメゴケ（小）
P. degenii ウスツメゴケ（湯）
P. praetextata チヂレツメゴケ（小）
Phaeophyscia hirtuosa シラゲムカデゴケ（小）
P. imbricate カワラバムカデゴケ（小）
P. limbata クロウラムカデゴケ（湯，小）
P. rubropulchra ? コナアカハラムカデゴケ？（湯）
Physconia grumosa ハクフンゴケ（湯，小）
Pilophorus clavatus カムリゴケ（湯）
Platismatia interrupta ウスバトコブシゴケ（湯，小）
Punctelia borreri ? ハクテンゴケ？（湯）
Pyxine sorediata コナクロボシゴケ（小）
Rinodina sp. ビスケットゴケ属の一種（小）
Schismatomma ocellulatum メダイゴケ（湯，小）
Sticta fuliginosa コウヤクゴケ（小）
Tephromela atra クロイボゴケ（小）
Thelotrema inalbescens アナゴケ（湯）
Tuckermannopsis americana ヒゲアワビゴケ（小）
T. gilva オーアケシゴケモドキ（湯，小）
Tuckneraria pseudocomplicata ウスカワゴケ（小）
T. togashii トガシアワビゴケ（小）
Usnea diffracta ヨコワサルオガセ（湯，小）
Xanthoparmelia sp. キクバゴケ属の一種（湯）

日本地衣学会第１６回観察会に参加して

Travel note of the 16th JSL Field Meeting at Oku-nikko, Nikko-shi, Tochigi-ken, central Japan (2 – 3 Sep. 2017) / by KOSUGI Makiko

>>>>>>> 小杉 真貴子：中央大学

９月初旬，夏休み明けで紅葉シーズンにはまだ早いということで，日光人気を甘く見ていました．日光行きの特急指定席が満席で乗れず鈍行を乗り継いでいくことになりましたが，何とか集合時間ぎりぎりに東武日光駅へ辿り着きました．前日までのはっきりしない天気が嘘のように晴れて東京は暑さがぶり返していましたが，標高約 1400 m の奥日光は清々しく絶好の行楽日和でした．鬱蒼とした山道を歩くことを想像していたのですが，遊歩道が整備された体力的にとても優しい平坦なコースで低地ではあまり見ることのできない地衣類を沢山愛でることができました．これまでの観察会ではあまり一般人の目は気にならなかったのですが，今回は頻繁に「何を見ているのか」と声を掛けられました．「コケだけど，（一般的に言われている）コケじゃないです」という答えにならない答えしかできず悔やんでいます・・．

１日目の湯ノ湖周辺の散策では，湖沿いの湿地にあったウスツメゴケとカムリゴケの大きな群落が印象的でした．ウスツメゴケは裏側の脈のでっぱり方で同定できるそうですが，なかなか他と見比べないと難しいです．アオシモゴケやイボフクロゴケも色や形態が特徴的で印象に残りました．

２日目の小田代ヶ原の自然研究路では木々の樹幹に巨大なヘラガタカブトゴケがこれでもかと張り付いていて感動しました．湿度が高いことに加えて林床まで光が差し込む環境が良いのでしょうか．ブナやミズナラが生育する冷温帯がほとんど無い地域で地衣研究をしていたので，カブトゴケ科は私の中でレアキャラです．以前観察会に一緒に参加した友達が極地で越冬していたので，写真を送ったところ生野菜に飢えているからか美味しそうに見えると言われました．確かに緑色で大きな個体はちょっとレタスっぽいですね．また，子基盤の周りからまつ毛のような棘（刺毛）を出しているシラゲムカデゴケの色や形態が特徴的で印象に残りました．ムカデゴケ科は何度説明を聞いても覚えられず苦手意識がありますが，これは覚えられそうです．ヒメゲジゲジゴケとトゲヒメゲジゲジゴケもよく間違えられるそうですが，ヒメゲジゲジゴケの小裂片をトゲヒメゲジゲジゴケの裂芽と見間違えないことがポイントだそうで，こちらは二種が隣り合って生えていたので「なるほど」と納得できました．

ラン藻を共生するシアノライケンの出現頻度が高く種も多様だったのですが，個人的にアオキノリ属マロチウム群の地衣類（アオキノリ属のうちトメンタが存在するグループ）が印象に残りました．遠目から見たときカワホリゴケ属かと思ったのですが，近くで見ると地衣体が厚手で裏側が白っぽく大型で存在感がありました．また，学生のころ手にすることが念願だった「*Dendriscocaulon*」と思われるものが倒木の上に生えているのを見ることができました．これは緑藻とラン藻の両方を共生するカブトゴケ科の地衣類がラン藻だけを共生したときに，通常は葉状の地衣体が樹状の形態になったものです．ただのラン藻も樹枝状に生えるものがあって私は良く見間違えていたのですが，それよりも骨格がしっかりしていて複雑な３次元構造をしていました．前日にあったら良いなあと話していたのですが，本当に見ることができるとは．豊かな自然が残されていることを改めて実感しました．

講師の原田先生と観察会のお世話をしてくださった坂井さん，綿貫さん，木下さん，どうもありがとうございました．

お知らせ　*News and Announcements*

選挙結果

Results of the Elections, 2017 / by TAKENAKA Yukiko

>>>>>>　竹仲　由希子：庶務幹事（2017年）

１．会長選挙結果の報告　2017 年 10 月２日

「役員等の選出についての細則」に基づき，宮川恒選挙管理委員長のもと行われました．

会長候補者（８月末日推薦締切）は，評議員会からの推薦者　原田浩氏（千葉県博）お１人でしたので，信任投票（９月 29 日締切）を行いました．

９月 30 日（土），開票作業を行い，得票数の集計が厳正に行われ，下記の結果となり，原田浩氏が次期会長に選出されました．

投票総数：　63 票
信任：　63 票
不信任：０票
無効：０票

選挙管理委員会：宮川恒委員長，濱田信夫委員　立会人：棚橋孝雄会長

２．次期役員の指名　2017 年 10 月４日

原田次期会長により，次期役員が下記のように指名されました．（敬称略）

庶務幹事　中嶌　裕之
会計幹事　原　光二郎
編集委員長　小峰　正史

３．評議員選挙結果の報告　2018 年１月 10 日

国内在住通常会員（次期役員を除く）を対象とし，選挙（11 月 24 日締切）を行い，11 月 25 日（土）に，選挙管理委員会（宮川恒委員長，濱田信夫委員）による開票作業が，棚橋孝雄会長，竹仲由希子の立ち会いのもと行われました．

得票数の集計が厳正に行われ，得票数の多い順に５名を選出し，その内承諾の得られた４名が，次期評議員として決まりました．新評議員の互選により，新議長が決定された後，追加評議員として２名が指名されました．

また，新評議員会にて，下記のように２名の監事が決定されました．（敬称略）

投票用紙　36 枚
有効票数　175 票
木下靖浩　19 票　（新議長）
川又明徳　15 票　（監事）
高取（木下）薫　14 票　（監事）
河原秀久　13 票
坂東　誠　（追加）
坂田歩美　（追加）

会長挨拶

Message from the President, 2018 / by HARADA Hiroshi

>>>>>>> 日本地衣学会会長 **原田浩**：千葉県立中央博物館

この度，本会第 9 期（2018～2019 年）の会長を拝命いたしました．就任に際し，ご挨拶を申し上げます．

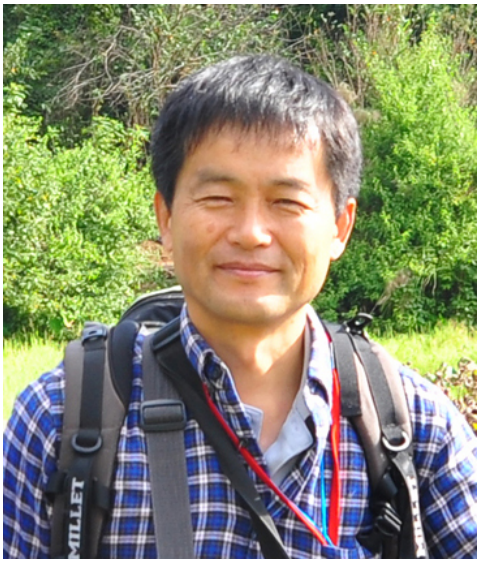
本会会員の皆様の多くは，会誌 Lichenology の論文やニュースレターの記事などから，私の活動の一端をご覧いただいていることと思いますが，改めて自己紹介をさせていただきます．

私の地衣学におけるスタートは，高知大学での卒論のテーマを「剣山の大型地衣類相」としたことでした．その時，高知学園短期大学に在職されていた，本会初代会長吉村先生の指導を受けました．以来，地衣類の分類を志し，広島大学大学院では痂状地衣へ手を広げ，学位論文では「日本産アナイボゴケ科地衣類の分類学的研究」をテーマとしました．1988 年に千葉県立中央博物館準備室に就職し，翌春，館のオープンを迎えてから現在に至ります．分類の研究においては，特に形態に興味を持ち，詳細な解剖学的な記載を行うことを心がけてきました．また職務上，地域のフロラ解明に時間を割いてきましたが，それは千葉県だけでなく，日本の地衣類相解明にもつながっていました．

当初私は，研究者は論文を書いていれば良いのだと思う傾向がありました．論文を書くのは当たり前のことなのですが，プロとしては学会の運営など社会的な責務を負うことが求められていることも知り，幾つかの学会等で活動していました．そのうえで，2000 年当時置かれていた日本の地衣学界の状況から，地衣類の学会が必要と判断し，設立の準備に積極的に加わりました．

2002 年 7 月に神戸薬科大学で開催された第 1 回大会に，感動しました．それまで地衣類の研究発表と言えば，数少ない分類学者による演題以外はほとんど聞いたことが無かったのですが，様々な分野における発表を生で聞くことができたのです．こんなに様々な研究がされているのだと実感できました．既に大会を 16 回も重ね，これは当たり前になりましたが，日本の地衣学の新たな段階がこのとき始まったと言っても良いでしょう．地衣類をめぐる異分野間の，この貴重な交流の機会を，なるべく多くの会員の皆様に共有していただきたいと思います．9 月初旬に予定されている栃木県立博物館における今年の大会には，多くの会員の皆様のご参加を期待します．

学会のもう一つの重要な事業は学会誌，Lichenology の発行です．本誌は地衣学のあらゆる分野を扱い，様々なレベルの論文を受け入れる学術誌だと私は考えています．こういった性質上，一般的な意味での一流誌というわけにはいきませんし，和文を掲載する必要上，国際誌というわけにもいきません．しかし，日本で唯



In Yunnan, China, 2015; photo by Yang Mei Xi.

ーの地衣学の学術誌であること自体に意味があります．地道に発行し続けてきたことで，日本の地衣類研究者が必ず見なくてはならない雑誌となりました．長年この道で活躍されるプロの先生方には，ぜひともご研究の成果を本誌への投稿という形で貢献してくださることを期待します．研究業績を積まなくてはならない若手の方々は，積極的に海外の雑誌に投稿してください．しかしその一方で，文献紹介などの原稿を Lichenology に投稿し，練習台として利用することもご検討いただければ幸いです．編集については，小峰編集委員長をはじめとする編集委員会の皆様，よろしくお願いいたします．

本会のもう一つの出版物であるニュースレターは，会の活動を知らせる広報誌として，あるいは会員の情報交換のためにあります．迅速な発行を可能にするため，2 ないし 4 ページ立てとし，発行後すぐに pdf をホームページに掲載しています．川上寛子（秋田県立大学）新委員長のもとニュースレター編集委員会には，ホットなうちに会員に便りを届けるよう心がけていただきたいと思います．一方，会員の皆様には投稿していただければと期待します．委員会から投稿依頼があったときには，快いお返事とともに，迅速な投稿をよろしくお願いいたします．

各地区における地域活性化委員会の活動に期待します．できれば年に一度は，それぞれの地区において青空地衣教室などイベントの開催を目指しましょう．まずは検討だけでもしていただきたいと思います．青空地衣教室は，会員のためのイベントであることはもちろんですが，会の活動をアピールするとともに新規会員を開拓するチャンスとなる可能性もあります．他の団体との共催も含めて，ご検討をお願いいたします．

学会がこのような諸事業を展開するには，財政的な基盤が必要になることは言うまでもありません．基本的に本会は，会員からの会費により運営されていますので，会員獲得が重要な課題となります．そのために，上で述べた本会の諸事業が会員にとって魅力的であることが求められます．更に，それを広報するホームページ等の活用も見逃せません．この大事な役目を，ホームページ委員長の原さんに，引き続きお願いいたします．また，庶務幹事として中嶌裕之さん，会計幹事として原さん，大変なお仕事ですが，よろしくお願いいたします．評議員の皆様には，会の活動全般に目を配っていただき，ともに魅力的な学会を実現するため，運営に力を合わせていきましょう．

さて，最後になりましたが，以下のような体制で学会を運営してまいります．会員の皆様，2 年間どうぞよろしくお願いいたします．

2018—2019 年度役員・幹事・委員会

会長： 原田 浩（千葉）

庶務幹事：中嶌 裕之（久留米）

会計幹事（2017 ～ 2018)： 原 光二郎（秋田）

監事： 川又 明徳（新居浜），高取（木下） 薫（清瀬）

評議員： 議長，木下 靖浩（横浜）．川又 明徳（新居浜），高取（木下） 薫（清瀬），河原 秀久（吹田），坂東 誠（池田），坂田 歩美（千葉）

編集委員会： 委員長，小峰 正史（秋田）；委員，木下 靖浩（横浜），松本 達雄（東広島），Theodore L. ESSLINGER,（North Dakota, U.S.A.），Jae-Seoun HUR,（Sunchon, Korea），川又 明徳（新居浜），小杉 真貴子（東京）， 坂田 歩美（千葉），高橋 奏恵（広島），王 欣宇（中国・昆明）

ニュースレター編集委員会： 委員長，川上 寛子（秋田）；委員，坂東 誠（池田）・河崎 衣美（奈良）

地域活性化委員会： 委員長，川又 明徳（新居浜）．<北海道・東北地域> 小林 寿宣・原 光二郎；<信越地域> 小山内 行雄・滝沢 寿一；<関東・中部地域> 綿貫 攻・木下 靖浩・今井 正巳・小杉 真貴子・坂井 広人；<近畿地域> 高萩 敏和・坂東 誠；<中国・四国地域> 川又 明徳・高橋 奏恵；<九州地域

> 中嶌 裕之

ホームページ委員会：委員長，原 光二郎（秋田）

学術交流委員会： 自然史学会連合担当，原田 浩；日本分類学会連合担当，原田 浩；日本植物学会担当，山本 好和（寝屋川）

日本の地衣フロラ解明プロジェクト： 委員長，原田 浩

日本地衣学会評議員会（2017 年 7 月 15 日）議事録（続報）

Additional proceeding of Board of Councillors, 2017.7.15 / by TAKENAKA Yukiko

>>>>>>> **竹仲 由希子**：庶務幹事（2017 年）

（ニュースレターNo.147 VI. 審議事項 1. 会則等の整備）

会則の，全項にわたる体裁，運用上の問題点を議論し，整備をおこない，下表のように改定をおこなった．改定後の会則全文については学会ホームページに公開する．

日本地衣学会会則等 改定表

改正後	改正前
会員の権利と会費についての細則 第2条 (1) 通常会員は年額 4,000 円，ただし学生は年額 2,000 円，国外在住のものは年額 20 ドル，国外在住の学生は 10 ドルとする． 2017 年 7 月 15 日 第2条改正	第2条 (1) 通常会員は年額 4,000 円，学生は年額 2,000 円とする．国外在住のものは年額 20 ドル，ただし，学生は 10 ドルとする． 附則
役員等の選出についての細則 第2条 会長は国内に在住する通常会員と名誉会員および有功会員（以下，総称して国内在住会員と呼ぶ）の選挙により選出する．選挙は国内在住会員の郵送投票により，最多数の得票を得た通常会員を当選者とする． 2017 年 7 月 15 日 第2条改正	第2条 会長は通常会員と名誉会員および有功会員の選挙により選出する．選挙は通常会員と名誉会員および有功会員の郵送投票により，最多数の得票を得た通常会員を当選者とする． 附則
役員選挙管理委員会についての内規 （4）最新会員名簿および会長候補申請書用紙（様式2） 2017 年 7 月 15 日 第4条改正	（4）最新会員名簿および会長立候補用紙（様式2）
会長選出についての内規 (1) 本内規は「役員等の選出についての細則」に基づき会長選出について定める．	(1) 本内規は「役員等の選出についての細則」~~（以下，細則と呼ぶ）~~に基づき会長選出について定める．

2017年7月15日　第1条改正	附則
評議員選出についての内規 ⑸　選挙で選ばれた次期評議員の中から互選により次期議長を選出する．次期議長の選出にあたり，庶務幹事がとりまとめをおこなう． （削除） 2017年7月15日　第5条改正	⑸　選挙で選ばれた次期評議員の中から互選により次期議長を選出する． ~~★　選挙管理手続き　すべての項~~ 附則
評議員会運営についての内規 （追加）（3）D.入会承認のためのメール評議員会 （4）会長あるいは議長が必要と認めたときは，その他の役員，委員長，委員等に評議員会への出席を求めることができる．ただし，議決権は持たない． （追加）（8）入会承認のためのメール評議員会は，庶務幹事が入会手続きのあったものの承認の可否を評議員に電子メールで確認する． （8）（9）（10）を順次繰り下げ（9）（10）（11）とする 2017年7月15日　第3条，第4条改正，第8条新設	（4）会長あるいは議長が必要と認めたときは，その他の役員，委員長，委員等は評議員会に出席することができる．ただし，議決権は持たない． 附則
大会運営についての内規 （1）本内規は，会則第３条に基づく大会の運営について定める． （2）大会は原則として開催前年の定例評議員会において，開催予定日（7月中旬頃から８月中旬頃の間），開催地，開催責任者（大会準備委員長，開催以後は大会実行委員長と呼ぶ）の承認を受けるものとする． （8）大会報告をニュースレター編集委員長に送付する． 2017年7月15日　第1条，第2条，第8条改正	（1）本内規は，~~日本地衣学会(以降，学会と称す)の~~会則第３条に基づく大会の運営に関するものである． （2）大会は原則として開催予定前年の定例評議員会において，大体の開催日（7月中旬頃から８月中旬頃の間），開催地，開催責任者（大会準備委員長，開催以後は大会実行委員長と称する）の承認を受けるものとする． （8）大会報告を編集委員長に送付する． 附則
大会準備スケジュール 大会開催を７月下旬とする原則的なものを示す． （追加）1．前年12月末までに，大会予告HP掲載 2．５月初旬：大会参加案内HP掲載 3．６月初旬：講演申込締切 4．６月中旬：大会プログラムHP掲載 5．７月初旬：参加事前申込締切，講演要旨集用要旨締切 6．７月初旬：大会開催	1．５月初旬：大会参加案内HP掲載~~，e-mail非保有者への郵送~~ 2．~~5月10日：生物科学ニュース7月号(6月20日発行)掲載のための原稿送付締め切り~~ 3．６月初旬：講演申込締切 4．６月中旬：大会プログラムHP掲載

7．8月下旬：会誌用要旨送付締切 8．11月下旬：JSL ニュースレター大会報告（大会委員長および庶務幹事） 2017年7月15日大会準備スケジュール改正	5．7月初旬：参加事前申込締切，講演要旨集用要旨締切，~~IAL Newsletter 投稿締切~~ 6．7月初旬：大会開催 7．8月下旬：会誌用要旨送付締切 8．11月下旬：IAL Newsletter 大会報告（大会委員長または庶務幹事）
日本地衣学会会計内規 （2）5）決算の結果，余剰金が生じた場合には，学会会計の臨時収入とする． （3）会計幹事は，前年度会計年度終了後，速やかに，新年度予算案を作成しなければならない． （6）この内規は評議員会において過半数の同意を得て改定できる． 2017年7月15日　第2条，第3条，第6条改正	（2）5）決算の結果，余剰金が生じた場合には，次年度年次大会，次回シンポジウム等の運営費用にあてるものとする．この際，剰余金の保管については学会会計幹事が責任を持って行う． （3）会計幹事は，前年度会計年度終了時(12月31日)までに，新年度予算案を作成しなければならない． （6）この内規は評議員会において2分の1以上の同意を得て改定できる． 附則
学会事務局についての内規 （1）本内規は，会則第18条に基づく学会の事務局について定める． （3）の項目を削除，（4）を（3）とする 2017年7月15日改正	（1）本内規は，~~日本地衣学会（以降，学会を称す）の~~会則第18条に定める学会の事務局に関するものである． ~~（3）事務局は下記の役員で構成される．~~ ~~会長~~ ~~庶務幹事~~ ~~会計幹事~~ 附則
名誉会員の選出についての内規 （2）名誉会員推薦用紙（様式5）に所定の事項を記載し， （6）承認を得た次年度から 2017年7月15日　第2条，第6条改正	（2）名誉会員推薦用紙に所定の事項を記載し， （6）承認を得た年度から 附則
講師等派遣についての内規 （1）本内規は，会則第3条に基づき，地衣に関する知識の普及や地衣の研究等を目的として，学会以外の団体等に，講師等を派遣するための手続き等を定める． 2017年7月15日　第1条改正	（1）本内規は，~~日本地衣学会（以降，学会と称す）の~~会則第3条に基づき，地衣に関する知識の普及や地衣の研究等を目的として，学会以外の団体等に，講師等を派遣するための手続き等を定める~~ものである~~． 附則

学術奨励賞の選出についての内規 （4）学術奨励賞推薦用紙（様式6）に所定の事項を記載し， 2017年7月15日　改正	（4）学術奨励賞推薦用紙（様式1）に所定の事項を記載し，

以上

会員通信　*From Members*

干支の地衣類—戌年—．イヌに因んだ和名

Lichens of the Twelve Horary Signs 2018 —year of the Dog./ by HARADA *Hiroshi*

>>>>>>　原田 浩：千葉県立中央博物館

毎年恒例になってきた，「干支の地衣類」の時季になってきた．2018 年の戌年に因み，今回はイヌの名を冠した地衣類として，イヌツメゴケを紹介しよう．

イヌツメゴケ

Peltigera canina (L.) Willd.
= *Lichen caninus* L.

まず「イヌ」の前に，念のため「ツメゴケ」のほうを解説しておこう．葉状の地衣体縁部が伸びたその先に裸子器が付き，それが爪のように見えることからツメゴケと呼ばれることは，会員の皆様はご存知のこと．

さて，次に「イヌ」．和名のイヌツメゴケは，学名の種小名からきている．「*canina*」は犬を意味する．イヌはラテン語で「canis」，その形容詞形は「caninus」（イヌの）．属名 *Peltigera* は女性形なので，種小名も女性形「*canina*」をとる．属名が *Lichen* の場合は男性形なので，種小名も男性形の「*caninus*」である．

そもそも，この地衣を最初に正式に記載したのは，かのリンネである(学名の著者名では「L.」と略される)．植物・菌類（つまり地衣類も）の学名の出発点とみなされる，「Species Plantarum」（「植物の種」あるいは「植物種誌」）（Linnaeus 1754）の中で，「*Lichen caninus*」として記載された．このとき，なぜ「caninus」なのかの説明は全くなされていない．〔ちなみに，この著作でリンネは初めて学名の二命名法（種名が属名と種小名の 2 つの語からなる）を考案したことになっている．これによって，本書が植物・菌類の学名の出発点とみなされるのだ．動物の学名の出発点はこれより遅く，「Systema Naturae」（自然の体系）の第 10 版（Linnaeus 1758）である．〕

そこで，リンネの著作の中にヒントがないものか探してみた．

「Species Plantarum」における「*Lichen caninus*」の項には，彼自身の著作「Flora Svecica」（「スウェーデン植物誌」）（Linnaeus 1745）, p. 351 の引用があった．この引用元における本種の記述の 17 行目に，「*Suecis* Hundmåssa」とある．スウェーデン語で「Hundmåssa」ということのようだ．「Hund」は犬，「måssa」はコケ，つまり「イヌゴケ」ということになる．

ところで，15 世紀のヨーロッパでは，「Doctorine of Signatures」といって，「病気の研究や治療において，自然の導きをたどる不断の努力がなされた」（Smith 1921）という．それは，植物の様々な部位に，人間の部位や，人がかかる病気をほのめかす印（処方箋）を神が示されたという考えに基づいていた．地衣類でも，カブトゴケの仲間の *Lobaria pulmonaria* は lung-lichen（肺＋地衣）と呼ばれるように，地衣体腹面が肺胞に似ていることから，肺病の治療に使われたということは，様々な地衣類の教科書に書かれてきたことだ．イヌツメゴケ以外に Species Plantarum で記載されたツメゴケの仲間としては，*Lichen aphtosus* L.（=*Peltigera aphthosa*，ヒロハツメゴケ）と *Lichen venosus* L.（=*Peltigera venosa*，ヒメツメゴケ）の 2 種があるが，「venosus」は「脈がある」の意で，腹面の特徴を示しており，薬とは関係がない．一方，「aphtosus」は「アフタの」であり，「アフタ性口内炎の」ということで，口腔内にできる小さな潰瘍のこ

図 1．イヌツメゴケ標本． *Peltigera canina* (Harada no. 22530).

とらしい. *Peltigera aphthosa* の背面にある外部頭状体がそれに似ていることから，治療に使われるとともに，名づけられたようだ.

では，*Lichen caninus* はというと，Smith (1921) にその記述が見える．「Dillenius (1742) の中で，当時の著名な医師 Dr Richard Mead が狂犬に噛まれた患者の治療に確実な効能があったことを発見し，その処方が伝えられた」との旨が記されている．原文（Dillenius 1742）でもその経緯がラテン語で，また，Richard Mead による処方が p. 202 に「A certain CURE for the Bite of a Mad Dog」との見出しの下に英語で引用されている．この文献は日本地衣学会のホームページのリンクとして挙げている「Recent Literature on Lichens」にて，著者を Dillenius として検索すると，書誌情報とともに示されたリンクから参照することできる.

因みに，Dillenius (1742) では，この地衣の名をラテン語で「Lichenoides digitatum cinereum, Lactucae foliis sinuosis.」としており，英語で「The Ash colour'd Finger Lichenoides, with sinuated Lettuce Leafes: vulgo Ash-colour'd Ground Liverwort」（vulgo は「一般に」の意のラテン語）と併記しており，イヌを示す語は出てこない．Dillenius のこの著作「Historia Musorum」（「こけ誌」とでも呼ぶべきか）は，蘚苔類だけでなく，地衣類，シダのヒカゲノカズラ類，藻類も扱い，詳細な線画が示され，これらの生物群に関する当時の権威的な書籍だった.

上述の通り，Linnaeus (1745) は「スウェーデン植物誌」において「*Suecis* Hundmåssa」という名を使っている．そこでは Dillenius（1742)を引用していることから，そこに記述された狂犬病との関係に基づき，彼自身がこのスウェーデン名を付けた可能性は否定できないだろう．それから，植物・菌類の学名の出発点となる Species Plantarum（Linnaeus 1754）の *Lichen caninus* へとつながり，我々が使う *Peltigera canina* へと更につながっていくのだ.

すると，この地衣における「イヌ」の発端は，Dillenius (1742) にある Richard Mead ということになりそうだ．Richard Mead が，イヌツメゴケのどこにイヌを見出したのか？あるいは，もしかしたら，Dillenius が彼に教示したのだろうか？

一方，近年の文献，例えば Brodo et al. (2001. Lichens of North America)では子器がイヌの歯に似ているためとあり，Dobson (2011)では偽根が似ているためとしている．しかし，どうひいき目に見ても，私にはイヌの歯に見えない．むしろ，地衣体全体がイヌの足というのであれば，納得できないこともない.

引用文献

Brodo I.M., Sharnoff S.D. & Sharnoff S. 2001. Lichens of North America. 795 pp. Yale University Press, New Haven & London.

Dillenius J. 1742 ("1741"). Historia Muscorum, in qua circiter sexcentae species veteres et novae ad sua genera relata describuntur et iconibus genuinis illustrantur. [i]–[xvi], 1–576, Lam. I–LXXXVI. Oxoni e Theatro Sheldoniano.

Dobson F.S. 2011. Lichens. An illustrated guide to the British and Irish species. 496 pp. Richmond Publishing, Slough.

Linnaeus C. 1745. Flora Svecica, exhibens plantas per regnum sveciae crescentes, systematice cum differentiis specierum synonymis autorum nominibus incolarum solo locorum usu pharmacopaeorum. Stockholmiae.

Linnaeus C. 1754. Species plantarum, exhibentes plantas rite cognitas, ad genera relatas, cum differentiis specieicis, nominibus trivialibus, synonymis selectis, locis natalibus, secundum systema sexuale digestas. 1 – 1231 pp. Holmia.

Linnaeus C. 1758. Systema naturae per regna tria naturae secundum classes, ordines, genera, species, cum characteribus, differentiis, stnontmis, locis. Editio Decima, reformata. Holmiae.

Smith A.L. 1921. Lichens. 464 pp., i–vi. The University Press, Cambridge.

千葉県における地衣類分布調査と，調査記録としての「千葉県地衣類誌資料」 *Investigation of distribution of lichens in Chiba-ken, central Japan, and "Chiba-ken Chii-rui-shi Shiryo" for publishing survey results/ by HARADA Hiroshi*

>>>>>>> 原田 浩：千葉県立中央博物館

2016 年の本会第 15 回大会における発表「房総の地衣類誌．―千葉県における地衣類多様性解明の試み―」では，1989 年の千葉県立中央博物館開館以来の千葉県内における地衣類調査の状況を概説した（原田 2016）．特に 2012 年以降は，分布状況に関する調査を本格化させたことを述べた．本稿で述べる「（地衣類）分布調査」はこのことを指す．

分布調査は以下のように実施している．広さとしては直径 100m 程度までを単位として 1 地点とし，そこに出現する地衣類種を網羅するよう採集する．位置情報としては，地点の中央付近で GPS により緯度経度を得ている．調査では，大型地衣（葉状・樹状）の種は網羅するが，痂状地衣については基物を傷めるため採取が困難な場合が多いので可能な範囲内で実施している．この調査では大型地衣の分布は正しく評価できると考えているが，痂状地衣については同様に扱うことはできない．

当館において地衣類全標本の情報はデータベース化されているので，各地点の収集標本の同定結果を速やかにこれに反映することができる．このデータは，更に分布の評価や，多様性の評価へと利用していく予定である．

データベースを充実させていくのは際限のない作業であり，区切りをつけにくい．この性質は，これに携わる者のやる気に良い影響を与えない欠点となる．このため，各地点の収集標本の同定が完了し次第，同定結果をリストとしてまとめる方針とした．このような原稿を掲載するための適したメディア（雑誌等）がないため，「千葉県地衣類誌資料」を作り，これに順次掲載することにした．原稿はまず pdf 化し，千葉県内の地衣類調査に協力いただいている数名に配布するとともに，少数部数をプリントしている．2016 年 3 月 5 日発行の第 1 号に始まり，現時点で 18 号 44 ページに至り，21 箇所（うち 20 箇所は各 1 地点からなり，1 か所は 9 地点からなる）の調査結果を報告した．希少種を含めた詳細な情報を掲載するため，当面は広く一般公開をする予定はない．

引用文献

原田浩．2016．房総の地衣類誌．―千葉県における地衣類多様性解明の試み―．Lichenology 15: 116.

お知らせ *News and Announcements*

ニュースレター編集委員会からのお知らせ

From Editorial Board of the JSL Newsletter/ by KAWAKAMI Hiroko

>>>>>>> 川上 寛子：ニュースレター編集委員長

●ニュースレター編集委員交代のお知らせ

本誌は，中嶌裕之（久留米高専）さんを委員長として編集を進めてきましたが，No. 150 から川上寛子（秋田県立大学）が委員長を引き継ぎました．中嶌さん 1 年間大変お疲れさまでした．今号から，坂東誠（カカシ食研），河崎衣美（奈良県立橿原考古学研究所）の新体制で編集にあたります．皆様，どうぞよろしくお

願い致します．

●原稿募集

本誌は，会員からの原稿を随時募集しています．地衣類にまつわるエピソード，想い出，あるいは地衣類に関係する写真とタイトル，簡単な説明文だけでも受け付けます．電子メールにて次のアドレス宛に投稿御願いします：

khiroko@akita-pu.ac.jp （川上 寛子）

◆原稿募集
本誌は，会員からの原稿を随時募集しています．地衣類にまつわるエピソード，想い出，あるいは地衣類に関係する写真とタイトル，簡単な説明文だけでも受け付けます．電子メールにて次のアドレス宛に投稿御願いします：

khiroko@akita-pu.ac.jp （川上 寛子）

●複写される方へ

本誌に掲載された著作物を複写したい方は，(社)日本複写権センターと包括複写許諾契約を締結されている企業の従業員以外は，図書館も著作権者から複写権等の行使の委託を受けている次の団体からの許諾を受けてください．著作物の転載・翻訳のような複写以外の許諾は，直接本会へご連絡ください．

〒107-0052 東京都港区赤坂9-6-41 乃木坂ビル 学術著作権協会.
Tel: 03-3475-5618. Fax: 03-3475-5619. E-mail: naka-atsu@muj.biglobe.ne.jp

アメリカ合衆国における複写については，次に連絡してください．

Copyright Clearance Center, Inc. 222 Rosewood Drive, Danvers, MA 01923 USA.
Phone: (978) 750-8400. Fax: (978) 750-4744

●Notice about photocopying

In order to photocopy any work from this publication, you or your organization must obtain permission from the following organization which has been delegated for copyright for clearance by the Japanese Society for Lichenology.

Except in the U.S.A.: Japan Academic Association for Copyright Clearance (JAACC).
6-41 Akasaka 9-chome, Minato-ku, Tokyo 107-0052 Japan. Tel: 81-3-3475-5618. Fax: 81-3-3475-5619.
E-mail: naka-atsu@muj.biglobe.ne.jp

In the U.S.A.: Copyright Clearance Center, Inc. 222 Rosewood Drive, Danvers, MA 01923 USA. Phone: (978) 750-8400. Fax: (978) 750-4744.

●*Newsletter from the Japanese Society for Lichenology*, no. 150, pp. 559–576: eds. Kawakami H., Bando M., Kawasaki E., published by *the Japanese Society for Lichenology*, 9 Oct. 2018.

日本地衣学会ニュースレター 150号
発行日：2018年10月 9日
編集： 川上寛子・坂東誠・河崎衣美
発行者・発行所：日本地衣学会
〒830–8555 福岡県久留米市小森野1-1-1
久留米工業高等専門学校 生物応用化学科内

©2018日本地衣学会 （© 2018 The Japanese Society for Lichenology）
本誌記事の著作権は日本地衣学会に属します．無断転載・無断複写等は固くお断りいたします．